



1 口バートクリークの桟橋からはカバンクーパー島を望む
2 ソルトリーベイから先は気持ちのいい上りが続く。このあと
落とし穴があるとは 3 ツーリングでのお約束、バンク修理中。
きれいな自転車にもトゲがある？ 4 ローカルな小型フェリー。
迫力ある山々と比べ心許ないが、波も穏やかな海峡内でタイタ
ニックは必要ない 5 船には自転車置き場も完備している

いメニューにフルーツがつく。イン
グリッシュ・ブレッックファーストと
も呼ばれており、B & B それぞれに
「三疊の手料理や自家製のパンが出
てくる。シリアお手製のバナナマフ
インやラスベリージャムもそれだ。
「今日はビッグデイになる。しつかり
食べていってね」とすすめられた。
一番は、ギブソン市街地まで1
50mの上りだ。教わった迂回路さ
えも十分きつい。街が途切れたとこ
ろで騒道に入り、静かな森のなかを
進む。下り基調で足がよく回る。海
辺のリゾート地口バートクリークで
一息入れ、はるかバートクリークを
眺める。リゾートといっても何もし
ない。幹線道に戻り、シーシェルトの
街を過ぎると道は再び森のなかへ。
急いでいたので、景色のいい平坦な
脇道へ入るポイントを見過こした。
上り下りが続く本線を進み、ハンガ
ーノック寸前になってハーフムン
ベイに到着。サンドイッチをバクつ
き、その後も一本道をひた走った。
夕方5時に、2日目の宿「West C
oast Wilderness Lodge」へ着いた。こ
こはフィヨルド越しに山々を望む絶
景のレストラン「Inlets」があるが、
あいにく結婚式の準備で閉まってい
た。パブならやっているよと教えて
もらい、海へ下る。浮世離れたロッ
ジからの眺めと違い、下界から見
る景色は現実感がある。バーガー、
フィッシュ&チップスにビールはモ
ルソン・カナディアン。地ビールも
注文し、今日のルートを振り返った。
向こうで8人ほどのグループがにぎ

やかにやっている。先ほどのロッジ
の従業員たちだ。「夜光虫は見たか？
真っ暗になったら、マリーナに出
てらん。海面を手でかくと光ってキ
レイだよ」と教えてくれた。
帰りに桟橋に出てみたが、まだ早
すぎた。9時半に出直すと暗間は深
く、森も海も無口だ。満天星のなか、
金星が眩しい。北極星は天井側にシ
フトしている。海面を見たが何も見
えない。場所を移動し手で水をかく
「光ってる！」。目を凝らすと水中に
ポツ、ポツと蛍光が流れる。ロープ
で大きくかき混ぜてやると、夜光虫
たちは大騒ぎ。幻想的な光景である。
3日目は曇り空。空腹のままフェ
リー乗り場のあるアールズコープへ
直行したが、早すぎた。すると、次
に来たおばさんから声をかけられた。
「パウエルリバーに行くのか？ 向こ
う岸の道は広くなだらかだよ。私
も走れた」。「あそこがいいダイビン
グポイントがあるのは知っているか
？ 真っ赤な珊瑚礁があるんだ」と
ご主人。曇り空で鉛色の海面下に赤
い珊瑚があるとは、「水はクリスタル
クリーンでよく見えるぞ。もつとも
オルカの群れがやって来たときはし
ばらく潜れなくなるが」と。

「大きな滝が見えるかい？ あの崖
の上には湖があるんだ」と船上でも
教えてくれた。旅人にやさしい人々
だ。氷河に削られた海峡を抜け、ソ
ルトリーベイに着くと、ゆるやかな
上りが続き、海側の絶景で癒される
パウエルリバーまで33kmほど、車
の少ない道を軽快に進む。快調だ！

と思った瞬間、後輪がパンクした。
時間は余裕と思いきや、新品のタイ
ヤはビードが硬く、リムから外れな
い。タイヤレバーを一本折ったとこ
ろで冷や汗が背中を伝う。なんとか
外レパッチを当てて再出発した。幸
い20分前にフェリー乗り場に到着。
気温も上がり、デッキの上はボカ
ボカと暖かい。船足も速く、アツと
いう間に北米大陸が遠ざかる。カフ
エでチリビーンズを食べているうち
に、バートクリーク島は目の前だ。到
着後、「コモックスの町の間で」「エ
ス・ギャラリー」というインディアン
クラフトセンターに立ち寄る。街か
らは旧道の19Aを南下した。ときお
り森の切れ目から海の景色がのぞく。
向かい風には悩まされたが、海岸線
をひた走り、牡蠣剥きの作業場の脇
を過ぎて、「Fanny Bay Trading Co」
という土産屋に入る。アジア系のお
姉さんに近辺の情報や、宿への道筋
などを聞いていると、「日本人です
か？ この辺では、私しかいひん
ねん！」と、いきなり元気のいい関
西弁に変わった。尾崎友美さんとい
う。なにやらホットし、ジンジャー
エールを買い増して宿へ向かう。

3日目の宿「Ships Point Inn」に着
くと、アガサとロバートが出迎えて
くれた。ケベック州からやってきた
フレンチ・カナディアンだ。6つあ
る部屋はどれも内装が異なり、かわ
いらしい。男同士では無粋な感じだ。
今夜は夕食を振る舞ってくれること
になっている。まずは、海が見える
ジャグジーへ直行した。露天風呂で

と聞いた瞬間、後輪がパンクした。
時間は余裕と思いきや、新品のタイ
ヤはビードが硬く、リムから外れな
い。タイヤレバーを一本折ったとこ
ろで冷や汗が背中を伝う。なんとか
外レパッチを当てて再出発した。幸
い20分前にフェリー乗り場に到着。
気温も上がり、デッキの上はボカ
ボカと暖かい。船足も速く、アツと
いう間に北米大陸が遠ざかる。カフ
エでチリビーンズを食べているうち
に、バートクリーク島は目の前だ。到
着後、「コモックスの町の間で」「エ
ス・ギャラリー」というインディアン
クラフトセンターに立ち寄る。街か
らは旧道の19Aを南下した。ときお
り森の切れ目から海の景色がのぞく。
向かい風には悩まされたが、海岸線
をひた走り、牡蠣剥きの作業場の脇
を過ぎて、「Fanny Bay Trading Co」
という土産屋に入る。アジア系のお
姉さんに近辺の情報や、宿への道筋
などを聞いていると、「日本人です
か？ この辺では、私しかいひん
ねん！」と、いきなり元気のいい関
西弁に変わった。尾崎友美さんとい
う。なにやらホットし、ジンジャー
エールを買い増して宿へ向かう。

と聞いた瞬間、後輪がパンクした。
時間は余裕と思いきや、新品のタイ
ヤはビードが硬く、リムから外れな
い。タイヤレバーを一本折ったとこ
ろで冷や汗が背中を伝う。なんとか
外レパッチを当てて再出発した。幸
い20分前にフェリー乗り場に到着。
気温も上がり、デッキの上はボカ
ボカと暖かい。船足も速く、アツと
いう間に北米大陸が遠ざかる。カフ
エでチリビーンズを食べているうち
に、バートクリーク島は目の前だ。到
着後、「コモックスの町の間で」「エ
ス・ギャラリー」というインディアン
クラフトセンターに立ち寄る。街か
らは旧道の19Aを南下した。ときお
り森の切れ目から海の景色がのぞく。
向かい風には悩まされたが、海岸線
をひた走り、牡蠣剥きの作業場の脇
を過ぎて、「Fanny Bay Trading Co」
という土産屋に入る。アジア系のお
姉さんに近辺の情報や、宿への道筋
などを聞いていると、「日本人です
か？ この辺では、私しかいひん
ねん！」と、いきなり元気のいい関
西弁に変わった。尾崎友美さんとい
う。なにやらホットし、ジンジャー
エールを買い増して宿へ向かう。

と聞いた瞬間、後輪がパンクした。
時間は余裕と思いきや、新品のタイ
ヤはビードが硬く、リムから外れな
い。タイヤレバーを一本折ったとこ
ろで冷や汗が背中を伝う。なんとか
外レパッチを当てて再出発した。幸
い20分前にフェリー乗り場に到着。
気温も上がり、デッキの上はボカ
ボカと暖かい。船足も速く、アツと
いう間に北米大陸が遠ざかる。カフ
エでチリビーンズを食べているうち
に、バートクリーク島は目の前だ。到
着後、「コモックスの町の間で」「エ
ス・ギャラリー」というインディアン
クラフトセンターに立ち寄る。街か
らは旧道の19Aを南下した。ときお
り森の切れ目から海の景色がのぞく。
向かい風には悩まされたが、海岸線
をひた走り、牡蠣剥きの作業場の脇
を過ぎて、「Fanny Bay Trading Co」
という土産屋に入る。アジア系のお
姉さんに近辺の情報や、宿への道筋
などを聞いていると、「日本人です
か？ この辺では、私しかいひん
ねん！」と、いきなり元気のいい関
西弁に変わった。尾崎友美さんとい
う。なにやらホットし、ジンジャー
エールを買い増して宿へ向かう。

と聞いた瞬間、後輪がパンクした。
時間は余裕と思いきや、新品のタイ
ヤはビードが硬く、リムから外れな
い。タイヤレバーを一本折ったとこ
ろで冷や汗が背中を伝う。なんとか
外レパッチを当てて再出発した。幸
い20分前にフェリー乗り場に到着。
気温も上がり、デッキの上はボカ
ボカと暖かい。船足も速く、アツと
いう間に北米大陸が遠ざかる。カフ
エでチリビーンズを食べているうち
に、バートクリーク島は目の前だ。到
着後、「コモックスの町の間で」「エ
ス・ギャラリー」というインディアン
クラフトセンターに立ち寄る。街か
らは旧道の19Aを南下した。ときお
り森の切れ目から海の景色がのぞく。
向かい風には悩まされたが、海岸線
をひた走り、牡蠣剥きの作業場の脇
を過ぎて、「Fanny Bay Trading Co」
という土産屋に入る。アジア系のお
姉さんに近辺の情報や、宿への道筋
などを聞いていると、「日本人です
か？ この辺では、私しかいひん
ねん！」と、いきなり元気のいい関
西弁に変わった。尾崎友美さんとい
う。なにやらホットし、ジンジャー
エールを買い増して宿へ向かう。